本美濃紙 / 美濃和紙用具ミュージアムふくべ

和紙制作でもっとも大切な道具の一つが、繊維を混ぜた液体をすくうための竹簀（す）です。竹簀は、竹を割り削って加工したものを約 3,000 本組み合わせて、絹糸で縛ったものです。これを一つ作るのに、通常、1 週間を要し、これを作ることのできる職人は、この地域には 1 人しか残っていません。

展示されている写真には、竹簀の制作工程や、竹を割り削る道具が写っています。細く加工した竹は斜めの切り口に沿って丁寧に組み合わせ、紙の表面が滑らかになるよう絹糸で縛ります。職人は畳の上で竹簀を作るのですが、この竹簀は、絹糸のボビンがいくつもついた木板に縛りつけて固定されています。

他にも、竹を切る刃物や、竹に徐々に小さくなる穴を開けて円周を縮める鋼鉄製の引き板ややっとこなども展示されています。